坂野　茂実　議員

消防団を地域防災力の中核に

常総市消防団の現状及び充実について

議員　消防団の現状について伺う。

市長公室長　水海道支団11分団、石下支団5分団12部、女性支団1、条例定数472名、実員421名、充足率89％、平均年齢40・05歳である。

議員　広範囲な大規模災害発災時には常備消防の即時対応が困難な地域があることも予想される。即時対応力、要員動員力、地域密着力に優れた消防団が中核となって地域住民と連携を図ることが不可欠であり、充足率を100％に近付けるための努力を続けていただきたい。また、今後さらなる団員減が推測されるが、新規消防団員確保に向けた市の取り組みを伺う。

市長公室長　市のホームページや広報に活動状況を掲載するほか、機能別消防団の結成などにより、団員減少の対策を検討していく。

議員　免許制度の改正に伴い、消防自動車の運転ができない団員が出てくることが懸念されるが、市の対応を伺う。

防災危機管理課長　県内では八千代町が本年度から補助制度を導入したが、当市での導入については、国・県の今後の財政措置を注視したい。

議員　補助ありきでなく、近隣の情報を得ながら最善策を模索してほしい。また、防災先進都市づくりにおける消防団の役割について伺う。

市長　地域防災力の要は消防団であり、共助という部分でも一番重要なのが消防団である。防災先進都市にふさわしい消防団になるよう環境整備に努めていく。

一般質問 JOSOSHIGIKAIDAYORIJOSOSHIGIKAIDAYORIJOSOSHIGIKAIDAYORI 一般質問

中村　安雄　議員

５００人収容施設を水海道に

旧水海道商店街の現状と賑わい再生の取り組みについて

議員　現在の市民の広場は、長谷川市長時代に別の計画を進めていたが、選挙の戦いの材料となり大変残念な結果となった。その後市民の広場に隣接するカスミの店舗が移転し空き店舗となっており、その跡地を市で使ってくれという話があったと聞いている。その対応はプロジェクトチームで行うという話だが、経過報告を伺う。

市長公室長　市民の広場やカスミ跡地の利活用、老朽化した水海道公民館については市の重要課題としてプロジェクトチームで調査・検討を進めている。カスミ跡地と市民の広場が一体的な空間としての利活用が図れないか、また公民館機能だけでなく複合的な利活用が図れないかなどを検討している。

議員　カスミ跡地の利用についての具体的な協議内容を伺う。

副市長　公民館跡地とカスミ跡地の交換を基本に今後とも協議していく。

議員　水海道地区には使い勝手の良い建物がない。生涯学習センターには固定椅子が145席しかなく、椅子を入れても200席にしかならない。200人以上の会議は石下地区まで行かなければならない。500人くらい収容できる、しかも公民館等も一緒に兼ね備えた多目的な施設が必要である。カスミ跡地と市民の広場を一体的に利用すればアクセスしやすく余裕のある駐車場も確保できる。早急に計画を前進していただきたい。

市長　財源の確保も含めた具体案の提示を早急に検討する。

掲載できなかった質問　▶水海道駅前通り夜間照明問題について　▶資源ごみと報奨金制度について